



JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

2022年3月期決算説明資料

株式会社日本動物高度医療センター（東証グロース：6039）

2022年5月18日



- I 決算の概要
- II 市場動向および中期展望



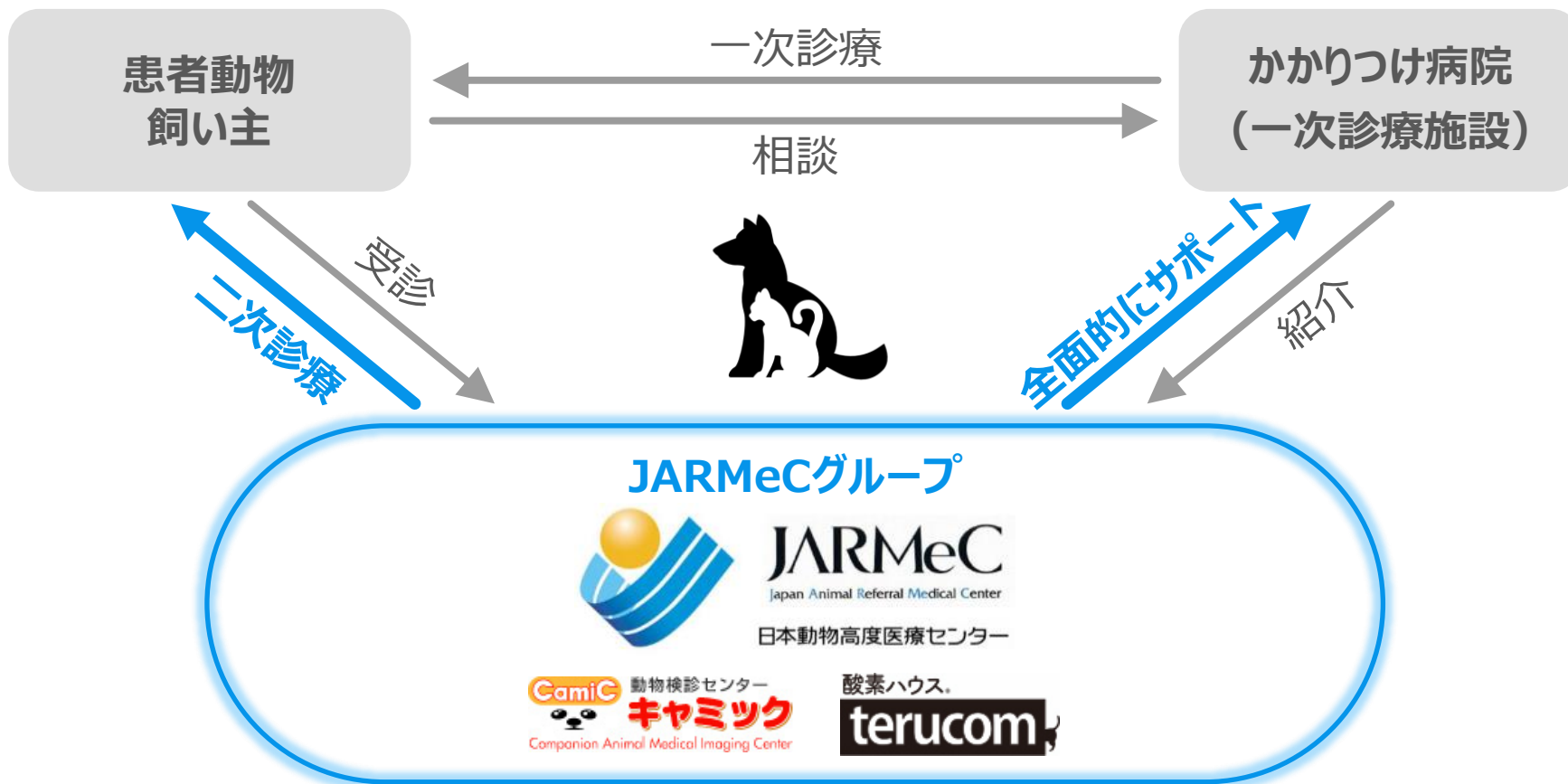


JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

I 決算の概要



当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ 二次診療を中心とした事業により、一次診療施設を全面的にサポート

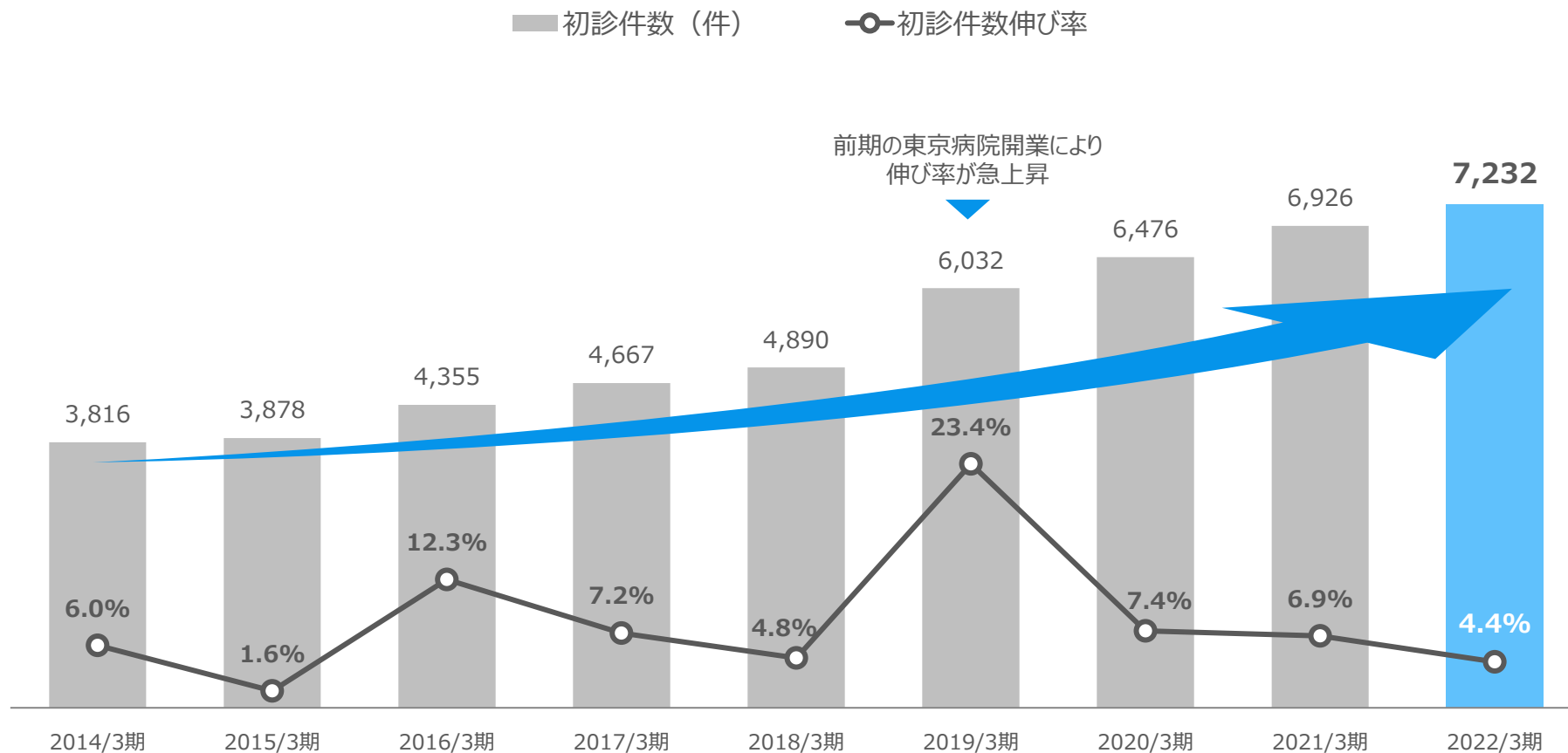
2022年3月期 決算概要

- 初診件数、総診療件数が増加し、前期比4.6%の増収。過去最高売上を更新
- 事業拡大に伴う費用の増加等も嵩んだが、営業利益は前期比8.3%増益し過去最高益を更新

(百万円)	2021/3期		2022/3期						
	実績	構成比	計画	実績	構成比	前期比		計画比	
売上高	2,847	100.0%	2,930	2,979	100.0%	+131	+4.6%	+49	+1.7%
営業利益	405	14.2%	410	439	14.7%	+33	+8.3%	+29	+7.1%
経常利益	410	14.4%	420	438	14.7%	+27	+6.7%	+18	+4.4%
親会社株式に帰属する 当期純利益	285	10.0%	290	286	9.6%	+1	+0.6%	▲3	▲1.1%
1株当たり 当期純利益	120.7円	-	121.8円	120.9円	-	+0.2円	+0.2%	▲0.8円	▲0.7%

事業KPI：初診件数（紹介数）の推移

- 初診件数は増加を続け、7,000件を突破

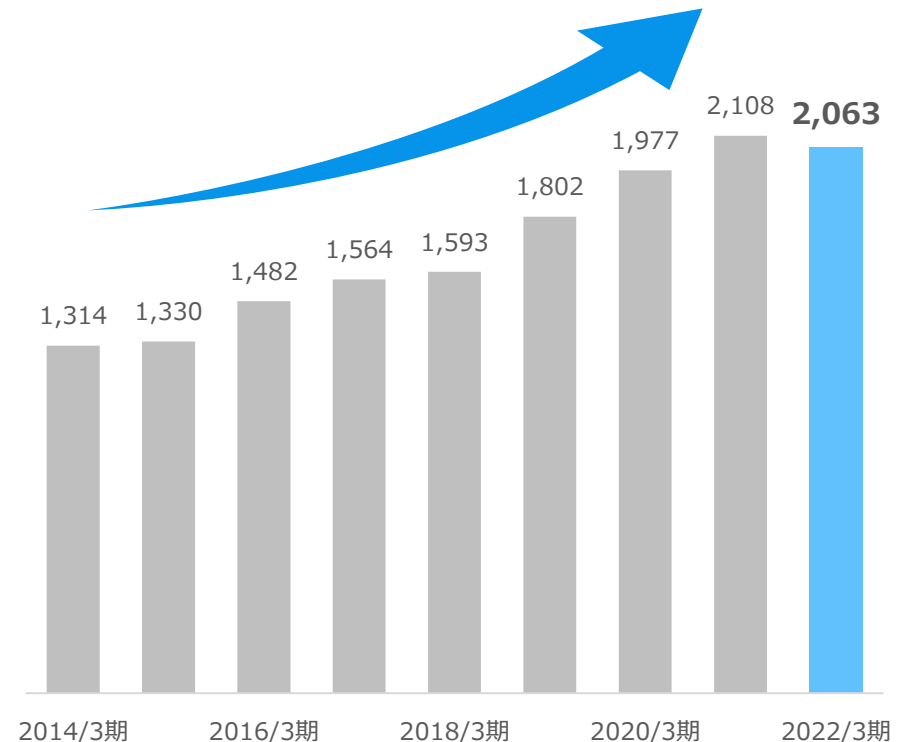
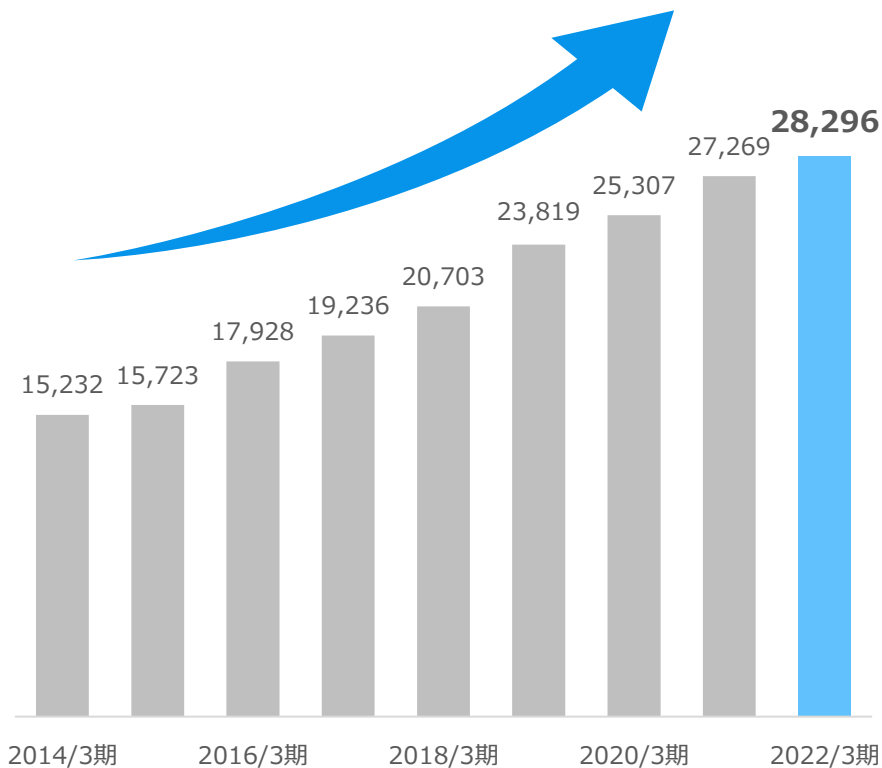


事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数は、初診件数、再診件数が共に増加し、28,296件で過去最多
- 手術件数は、前期比▲2.1%の2,063件で微減

総診療件数の推移

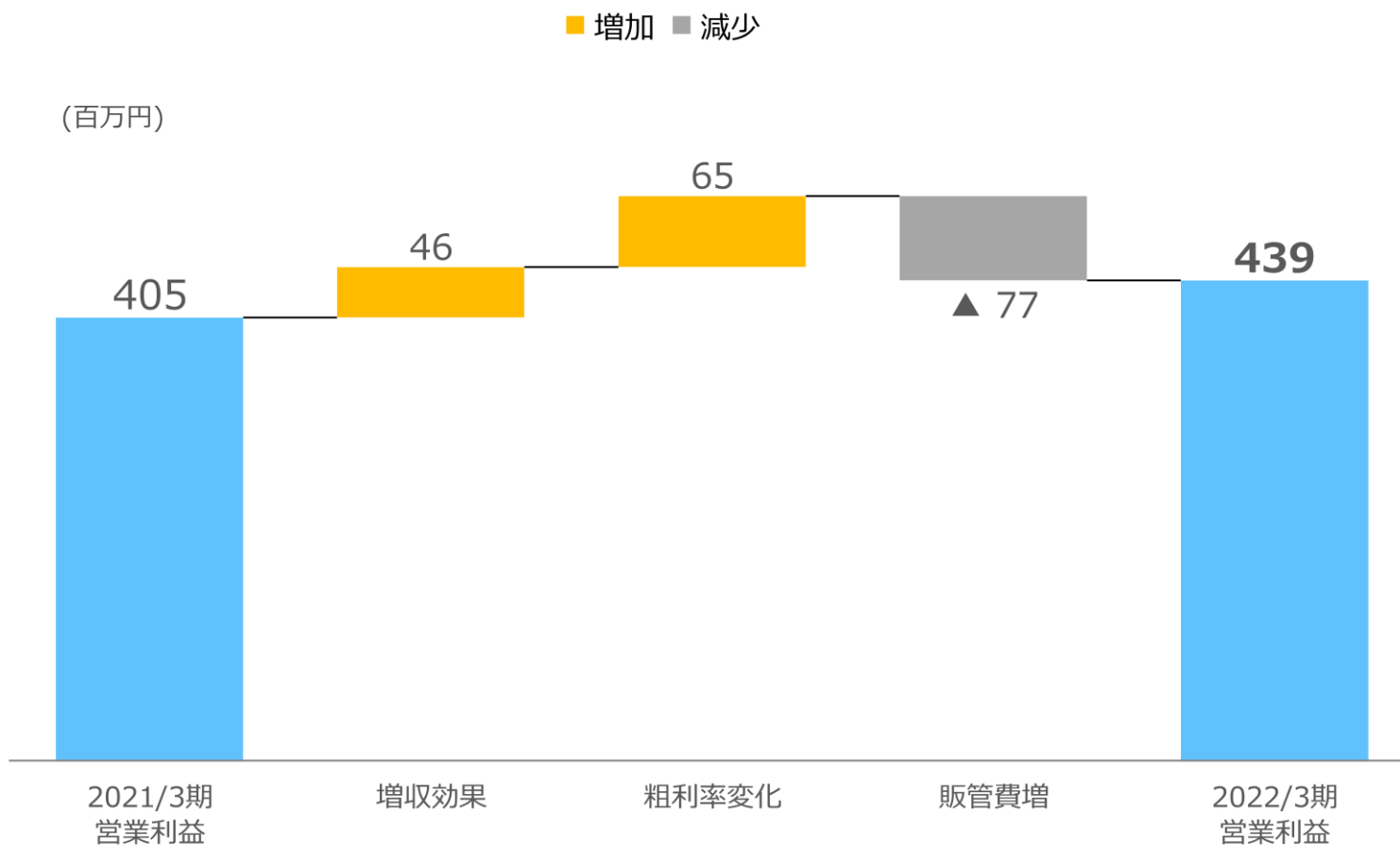
手術件数の推移



注：総診療件数は初診と再診の合計数

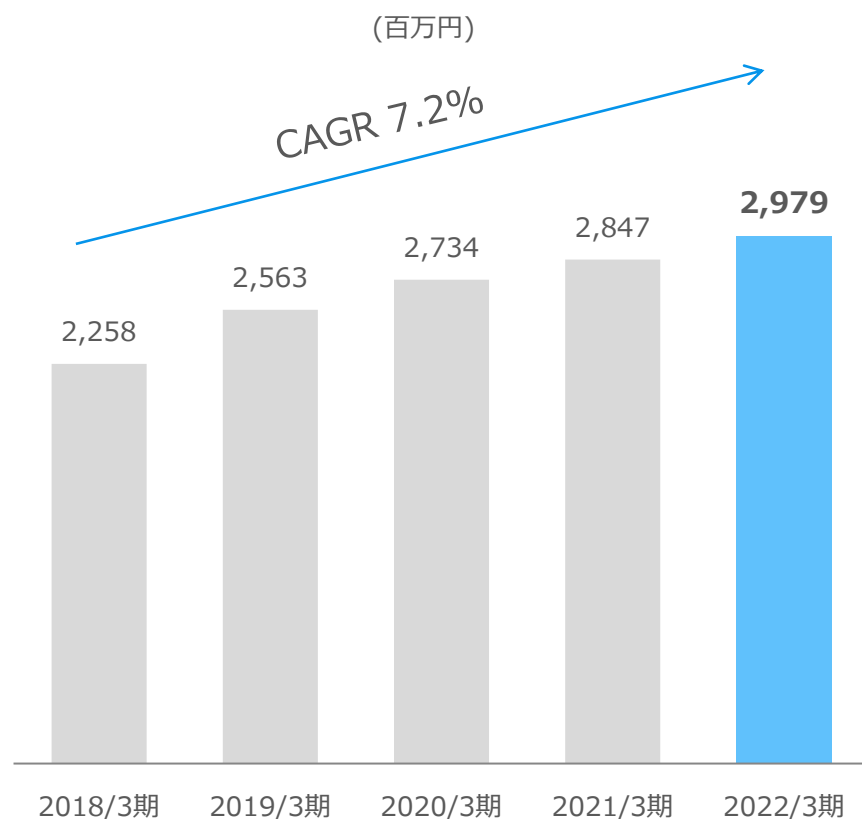
営業利益増減要因

- 増収により粗利率が改善し、販管費の増加分を吸収。前期比33百万円の営業増益

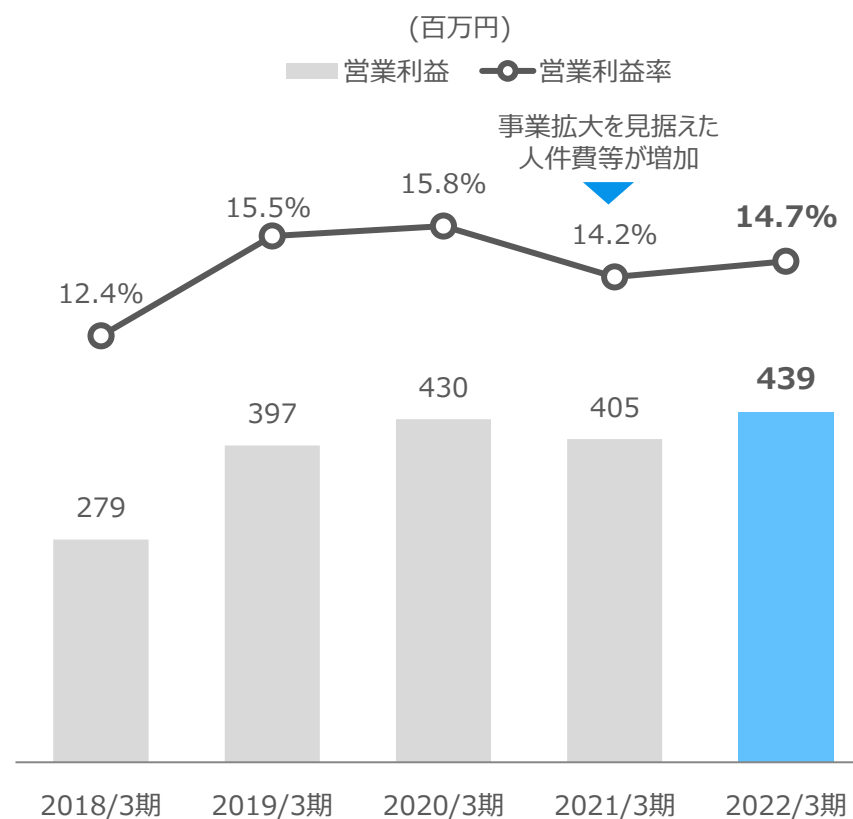


- 売上高は、前期比4.6%増収の29億79百万円となり、過去最高売上を更新
- 営業利益は、同8.3%増益の4億39百万円となり、過去最高益を更新。営業利益率は改善

売上高の状況



営業利益・営業利益率の状況



バランスシート状況

- テルコム(株)買収や大阪病院建設、(株)キャミック移転に伴い有形及び無形固定資産がそれぞれ増加し、固定資産は10億40百万円増加。主にそれらを使用とした長期借入金増加により、負債合計は9億49百万円増加
- 自己資本比率は40.0%から36.0%へ低下するも一定水準を維持

(百万円)	2021/3期	2022/3期	前期末比
流動資産	1,457	1,539	+81
現預金	1,214	1,068	▲146
売掛金	148	228	+80
商品	59	119	+59
固定資産	4,386	5,427	+1,040
有形固定資産	4,198	4,707	+508
無形固定資産	13	516	+502
総資産	5,844	6,966	+1,122
負債	3,507	4,456	+949
有利子負債	3,074	3,921	+847
純資産(株主資本)	2,336	2,509	+173
自己株式	▲89	▲186	▲96
負債純資産合計	5,844	6,966	+1,122

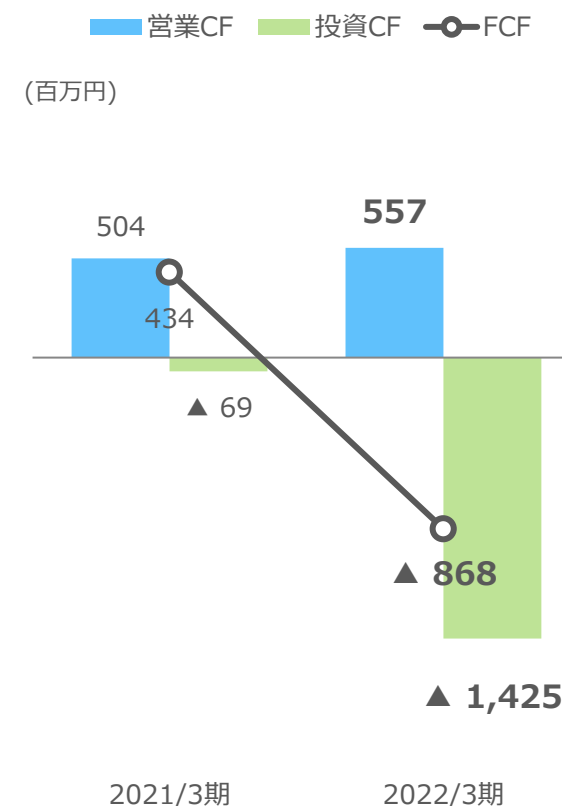
有利子負債依存度は
52.6%から56.3%へ上昇

自己資本比率は
40.0%から36.0%へ低下

キャッシュフローの状況

- 主に当期純利益や減価償却費の増加により、営業CFは53百万円増加しプラスを維持
- テルコム(株)買収や大阪病院建設、(株)キャミック移転等の積極投資により、投資CFは▲14億25百万円
- 長期借入による収入等により、財務CFは大幅に増加し7億22百万円

(百万円)	2021/3期	2022/3期	前期比
営業CF	504	557	+53
税金等調整前 当期純利益	411	423	+11
減価償却費	220	241	+20
移転関連費用	-	25	+25
棚卸資産の増減	▲9	15	+24
投資CF	▲69	▲1,425	▲1,356
有形固定資産取得	▲65	▲601	▲536
連結範囲変更を伴う 子会社株式の取得	-	▲784	▲784
FCF*	434	▲868	▲1,302
財務CF	▲469	722	+1,191
有利子負債の増減	▲330	845	+1,175
現金同等物の期末残高	1,114	968	▲146



*FCF (フリー・キャッシュフロー) = 営業CF + 投資CF

2023年3月期の見通し

- (株)テルコムを買収及びグループ各社との連携を一段と強化し、経営効率を改善。2023年3月期見通しについては、大幅な増収増益を計画
- 一次診療施設とのコミュニケーション強化になお一層力を入れ、初診件数増加を図る

(百万円)	2022/3期		2023/3期			
	実績	構成比	計画	構成比	前期比	
売上高	2,979	100.0%	3,860	100.0%	+880	+29.6%
営業利益	439	14.7%	535	13.9%	+95	+21.8%
経常利益	438	14.7%	540	14.0%	+101	+23.1%
親会社株主帰属 当期純利益	286	9.6%	365	9.5%	+78	+27.2%

Ⅱ 市場動向および中期展望



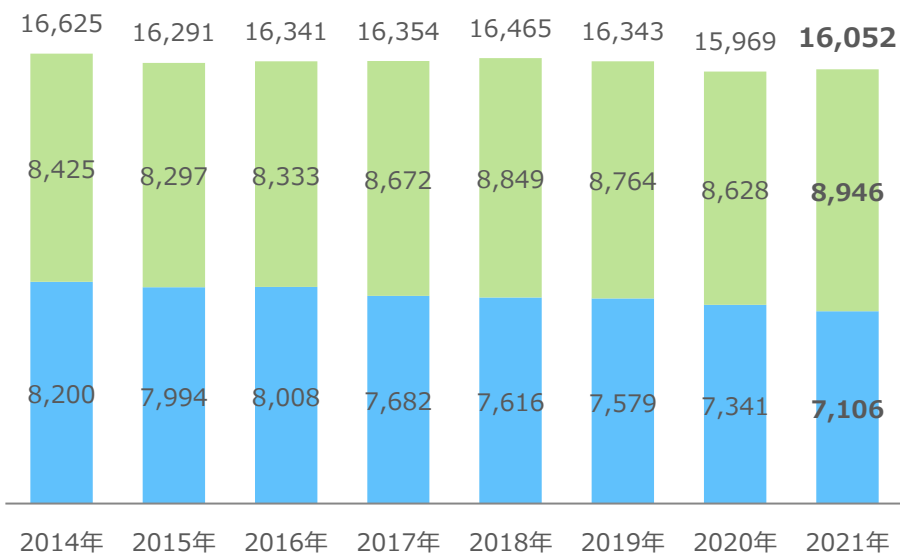
- ① 拠点の展開と連携病院数の拡大
- ② 人材確保と業務効率化
- ③ 事業の多角化と協業加速

動物医療業界を取り巻く環境

- 犬の飼育頭数は依然として減少傾向にあるが、世話のしやすさやマンションでも飼育可能等の理由から高齢層及び若年層を中心に猫の飼育頭数は緩やかに増加。犬猫飼育頭数全体では前年比で微増
- 一方で、新規犬猫飼育頭数はここ2年間で大幅に増加。新型コロナを契機に猫飼育需要が高まったこともあり、過去8年間で最多の886千頭

犬猫飼育頭数

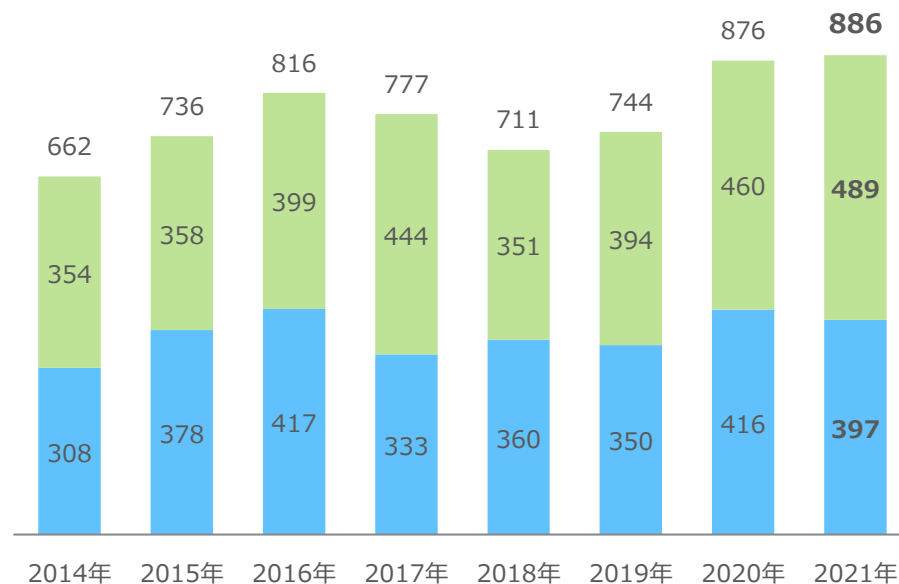
■ 犬飼育頭数 ■ 猫飼育頭数 (千頭)



新規犬猫飼育頭数*

*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数 (千頭)

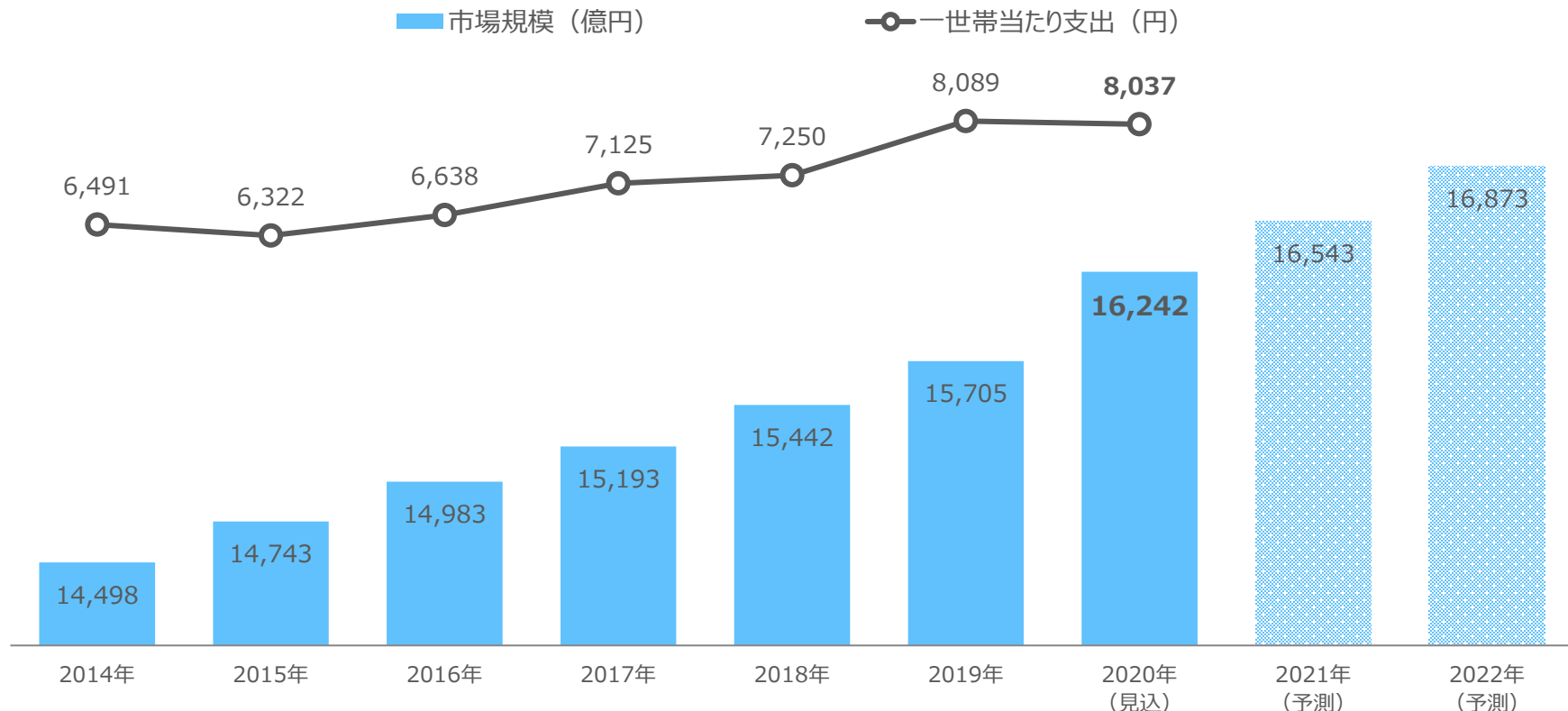


ペット関連総市場規模

- ペットの家族化により、犬猫の高齢化に伴い疾病が多様化する中で飼い主の動物医療に対する多様化・高度化要請は増加し、世帯当たりの動物病院支出額は増加傾向
- ペット関連総市場規模は年々拡大

ペット関連総市場規模*と一世帯当たり動物病院支出額

*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体

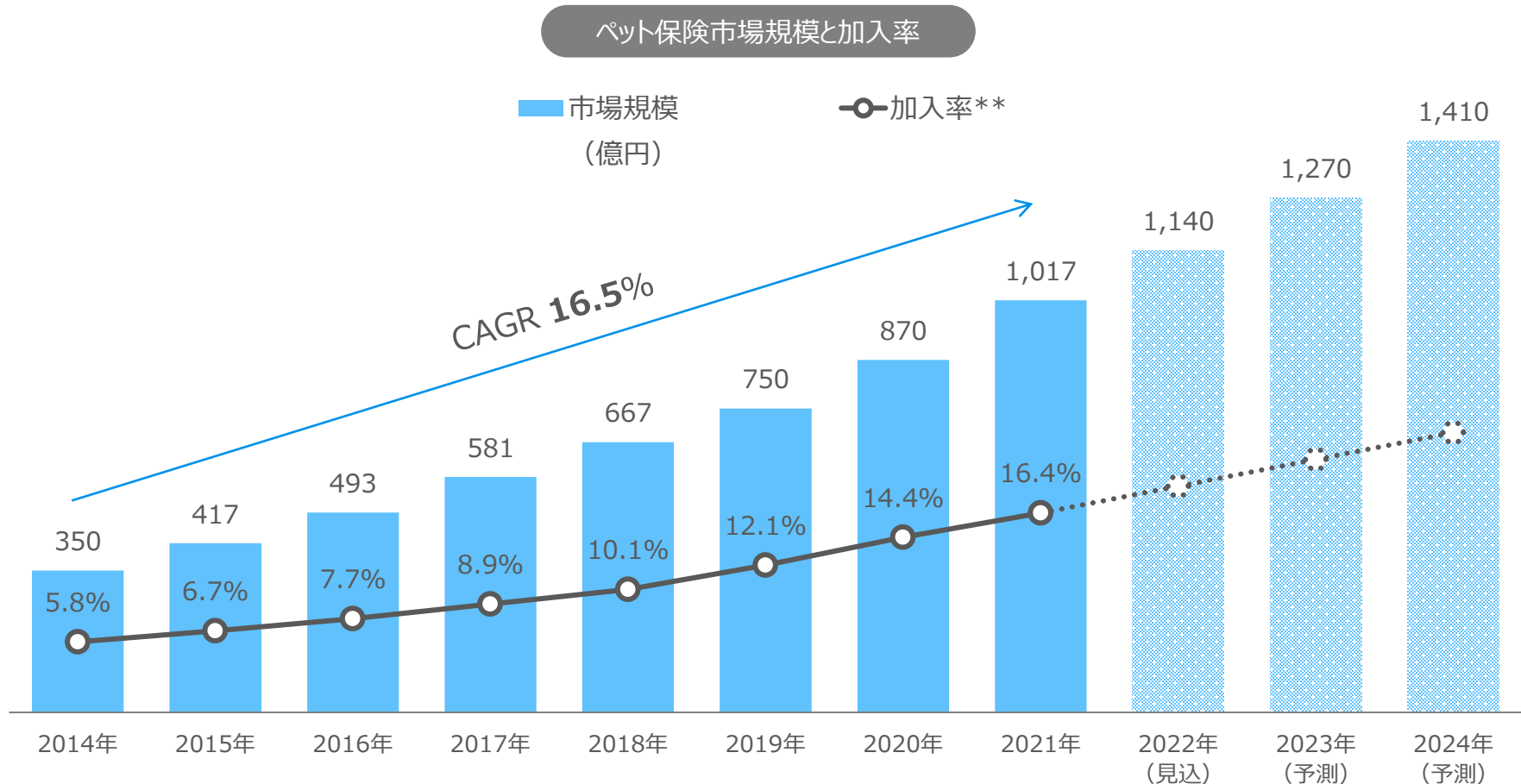


出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」、総務省「家計調査」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

ペット保険の成長性

- ペット保険の市場規模は年平均16.5%拡大し、今後も拡大傾向が続く見通し
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい



*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率

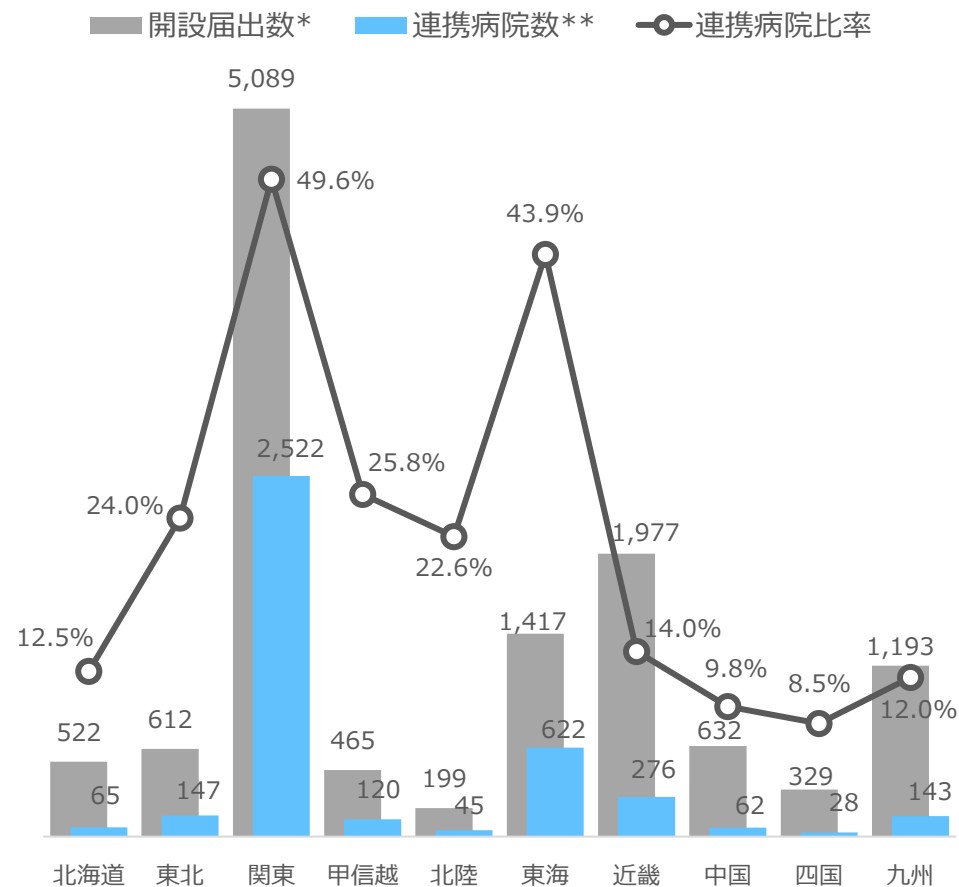
**犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

出所：富士経済「2022ペット関連市場マーケティング総覧」
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」
(注) 一部企業の見直しに伴いデータを遡って修正

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

拠点の展開

- 当社4番目の拠点として、2022年1月に大阪病院の建設に着工。2023年2月の完成を見込む
- 大阪病院開業により、関東、東海エリア同様に関西エリアを中心に連携病院比率の引き上げを計画
- 全国主要都市に施設の展開を積極的に推進中

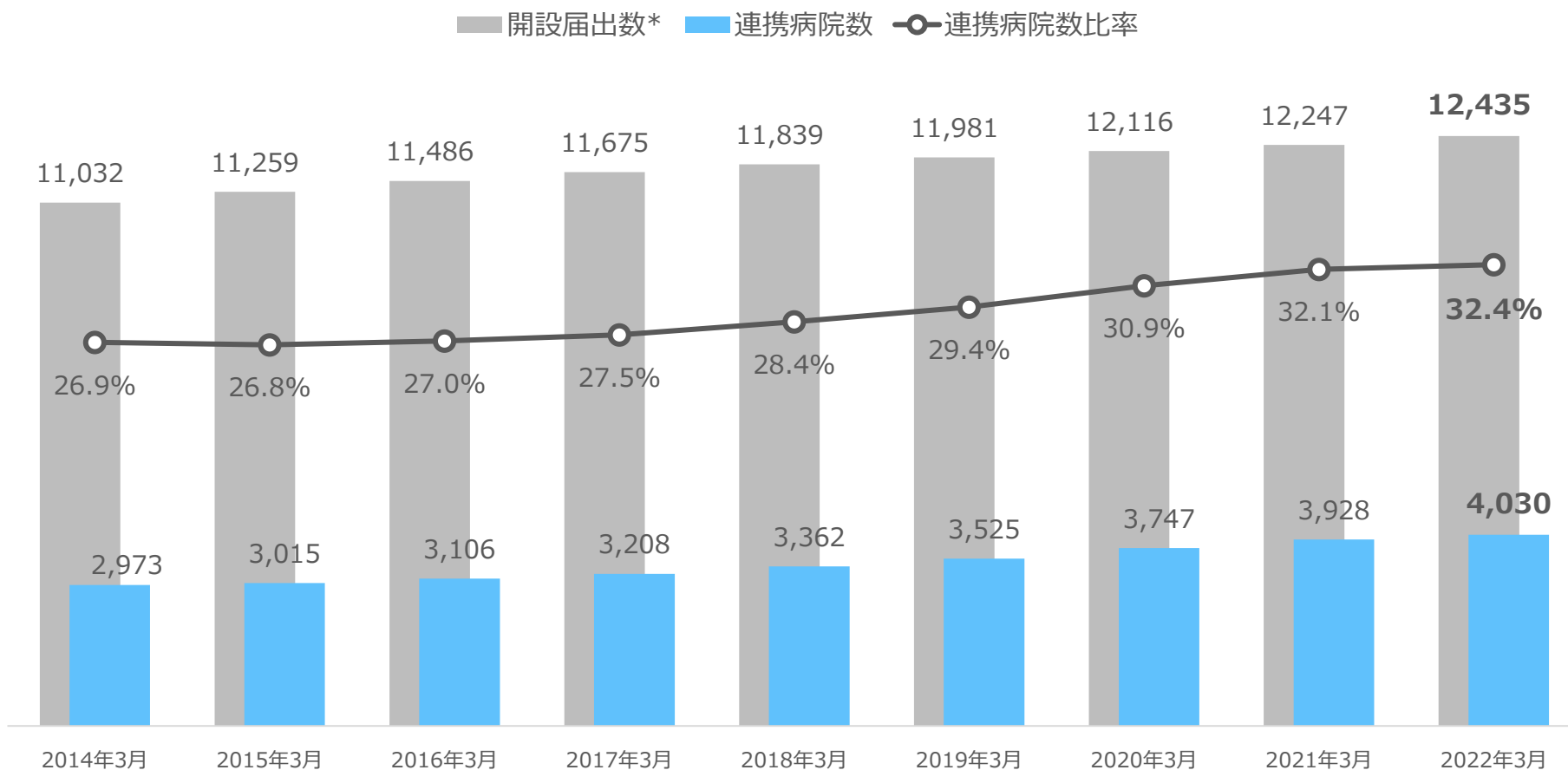


*開設届出数は農林水産省（令和3年12月末時点の小動物診療施設の件数）

**連携病院数は2021年9月末時点の件数

連携病院数の拡大

- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加
- 2022年3月末時点で全国4,030施設と連携し、連携病院数比率は32.4%まで上昇



*開設届出数は農林水産省（令和3年12月末時点の小動物診療施設の件数）

- 拠点拡大の一環として、獣医師や動物看護師などの増員を図る計画
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を継続

人材確保

優秀な人材の確保

- 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
- 採用特設サイトを刷新
- その他採用活動を積極的に実施



従業員の育成

- 全科ローテーション研修プログラムの実施
(農林水産大臣指定の小動物臨床研修診療施設)
- 症例検討会、各種講習会、臨床・病理検討会の活用
- 豊富で多彩な症例と手術数/専門診療科による高度医療の習得



役割の拡大

動物看護師の国家資格化 (愛玩動物看護師)

動物看護師の国家資格化による
役割の拡大、獣医師の負担軽減

業務の効率化・生産性の向上

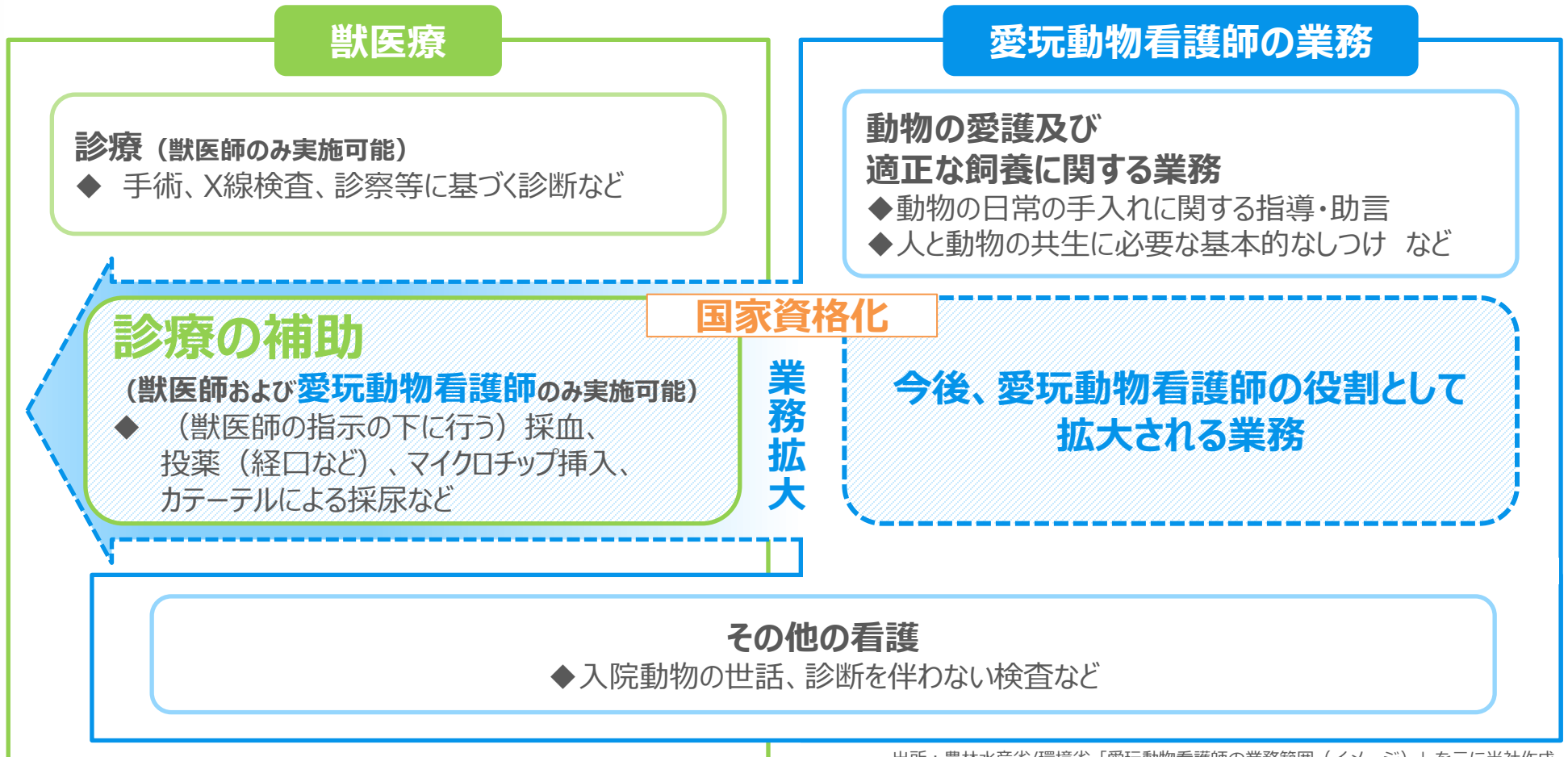


出所：農林水産省/環境省
新しい国家資格「愛玩動物看護師」ができました！
(パンフレット)

愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される
- 第1回愛玩動物看護師国家試験は、2023年2月中旬に実施される予定

*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他政令で定める動物（オウム科全種、カエデチョウ科全種、アトリ科全種）



事業領域の拡大

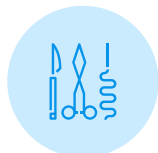
- 患者動物・飼い主に寄り添い、一次診療施設を多方面からサポート



診療外領域においても利便性を高めるシステムやサービスの開発・販売を検討



- 動物医療に関連した事業の買収を積極的に推進



医療機器



保険



ペットフード



医薬品

活動量計「プラスサイクル」を使用した取り組み



- 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」



一次診療施設（動物病院）経由での拡販を目指し、普及促進



複数の企業との協業を加速

動物医療業界における総合的企業へ

テルコム(株)の子会社化による事業領域の拡大

- 2022年3月18日にテルコム(株)*全株式を取得し、子会社化
- 同社が構築してきた「全国規模の飼い主、一次診療施設との接点」と、当社グループの「二次診療サービス」が融合し、中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスが提供できることを企図

*テルコム株式会社：動物の在宅医療に必要な「酸素ハウス」（酸素濃縮器、ケージ、酸素濃度計等のセット）の貸与・販売を全国規模で行う企業

酸素ハウス。



酸素ハウスを必要とするすべての方に、
もっと安心を届けられるように。

全国規模の
飼い主、一次病院との接点



JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

動物にも人間と同じような
高度な医療を受けさせたい

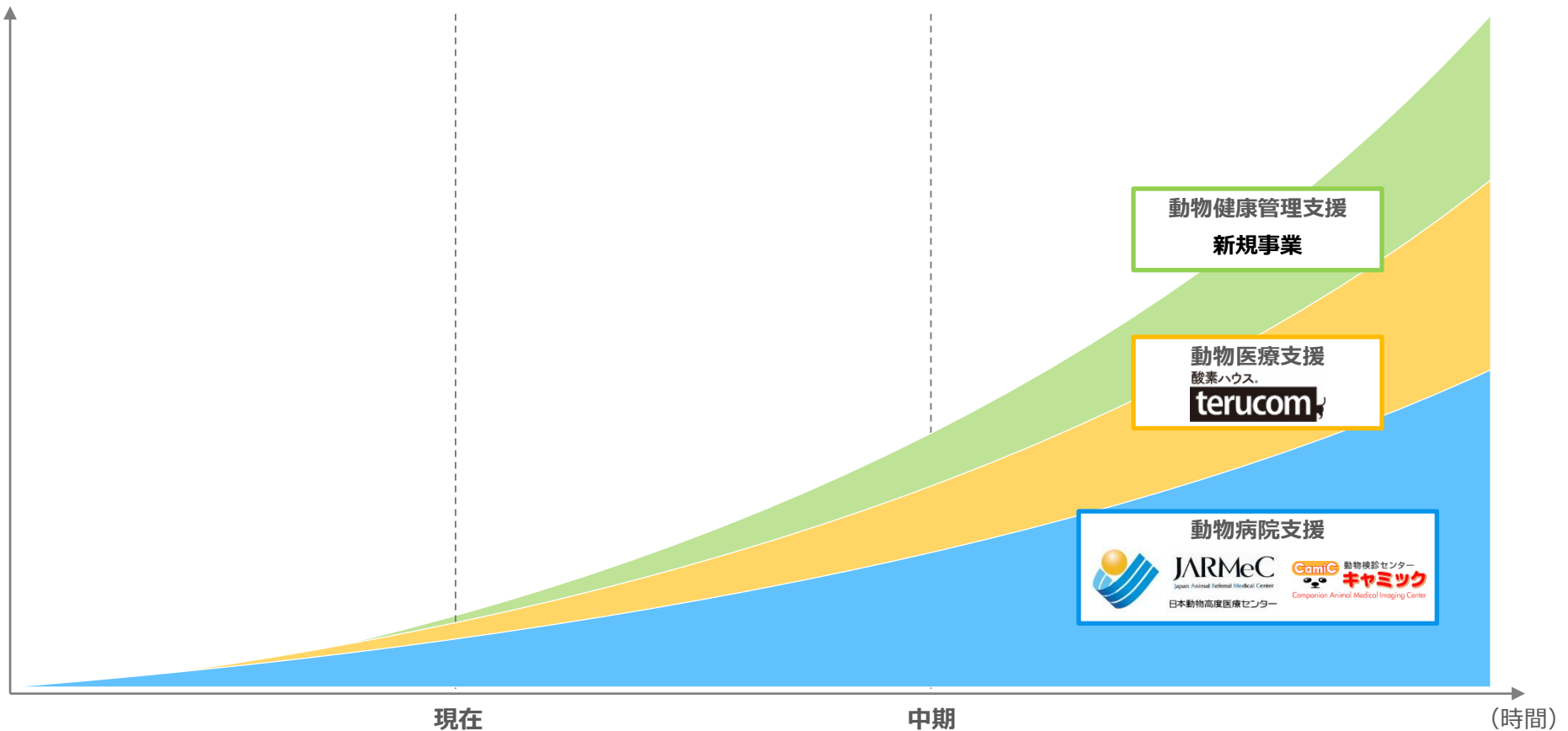
二次診療サービス

両社の経営姿勢、経営方針が合致し、
中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスを提供

中長期成長イメージ

- 短中期では、二次診療動物病院の拠点を全国的に展開しつつ、動物医療に関連する事業買収等の新規事業取り組みにも着手。一次診療施設との連携を強化し、既存事業の拡大を図る
- 長期的には、事業領域を動物の健康管理等多方面に広げ、動物医療業界における総合的企業としての地位確立を目指す

(事業規模)





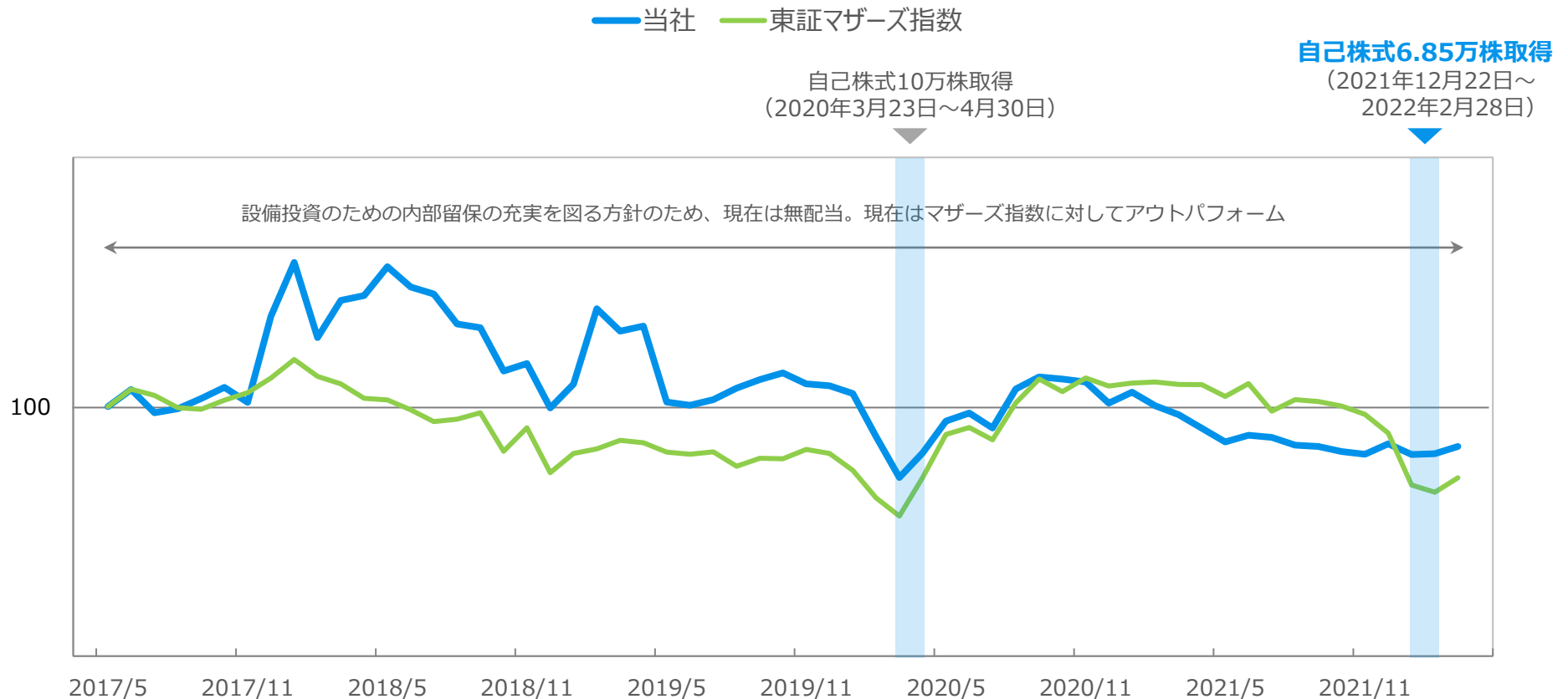
JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

appendix



株主還元：上場来2度目の自己株式取得を実施

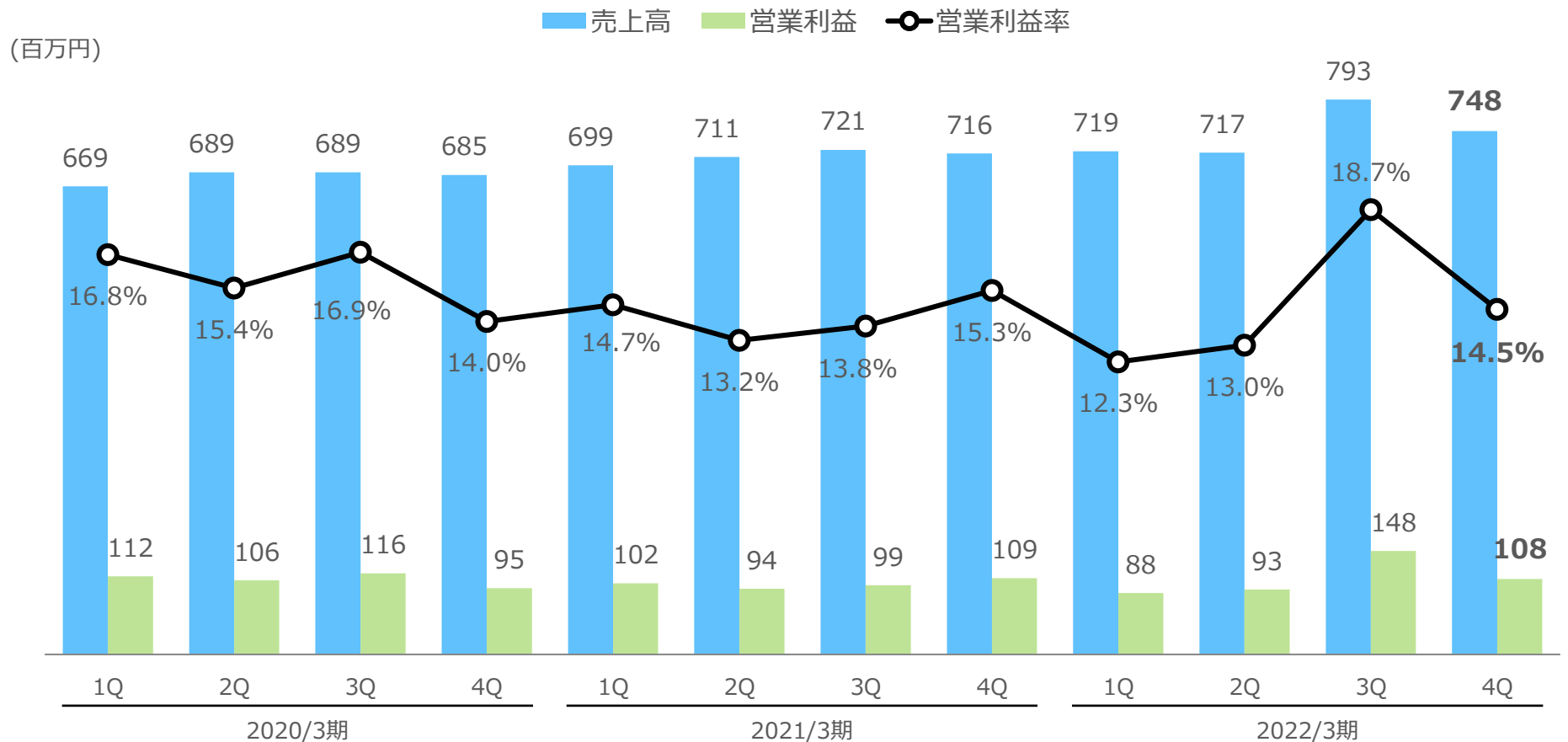
- 設備投資のための内部留保の充実と併せて、株主還元として自己株式取得を実施





(注) 2017年5月末を100とした、5年間の月次株価推移

(ご参考) 四半期決算 業績推移

- 四半期売上高についてはやや横ばいでの推移であったが、2022年3月期第3四半期より増加基調へ転換
- 営業利益についても同様に同第3四半期より増加基調へ転換。2022年3月期下期の営業利益率は16.7%となり、半期における過去最高水準を更新



会社概要

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻巣 1-602 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 大阪病院 : 2023年3月に開業予定
設立年月日	2005年9月26日
資本金	385百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	254名（非常勤30名を含む）※グループ全体（2022年3月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック （高度医療機器を用いた動物の画像診断センター） テルコム株式会社 （動物用酸素濃縮器等の製造・販売・貸与を行う医療機器メーカー）  

沿革

- 2005年9月 ○ 株式会社日本動物高度医療センターを設立
- 2007年6月 ○ 川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業
- 2009年3月 ○ 「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける
- 2011年12月 ○ 名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業
- 2014年1月 ○ 株式会社キャミックを子会社化
- 2015年3月 ○ 東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）
- 2017年6月 ○ キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業
- 2018年1月 ○ 東京病院を東京都足立区に開業
- 2022年2月 ○ キャミック城北を埼玉県さいたま市南区に移転開業
- 2022年3月 ○ テルコム株式会社を子会社化
- 2022年4月 ○ 東京証券取引所グロース市場に移行

病院の区分		獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	11	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

JARMeCが提供する高品質なサービス

高度医療機器

獣医科大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える

柔軟な受入対応

年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評

チームによる診療体制

専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。
必要に応じて複数の診療科が協力して対応

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター
管理部 企画課 IR担当
044-850-1320
e-mail : ir@jarmec.jp